

# 土づくりが不十分な場合は、栽植密度を増やしボカシを田面施用すると効果的

土づくり（耕耘時期）と栽培方法（栽植密度，ボカシ施用時期）の組み合わせは、水稲と雑草生育に影響します。雑草害を低減し収量を高めるには、秋耕を行うなど土づくりが重要で、ボカシは田植え後が効果的です。春耕など土づくりが進んでいない場合は、栽植密度を増やし、ボカシを施用すると雑草害が低減されます。

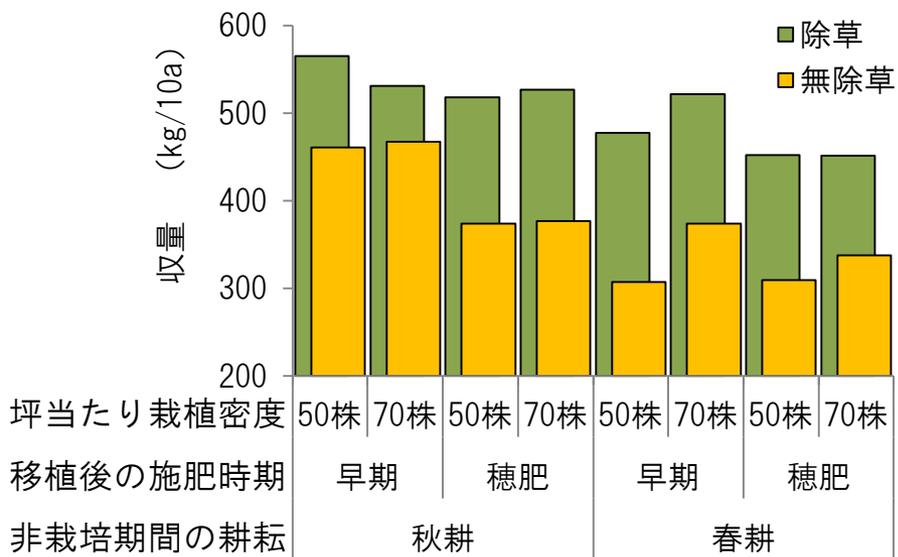


図 栽培方法と水稲収量

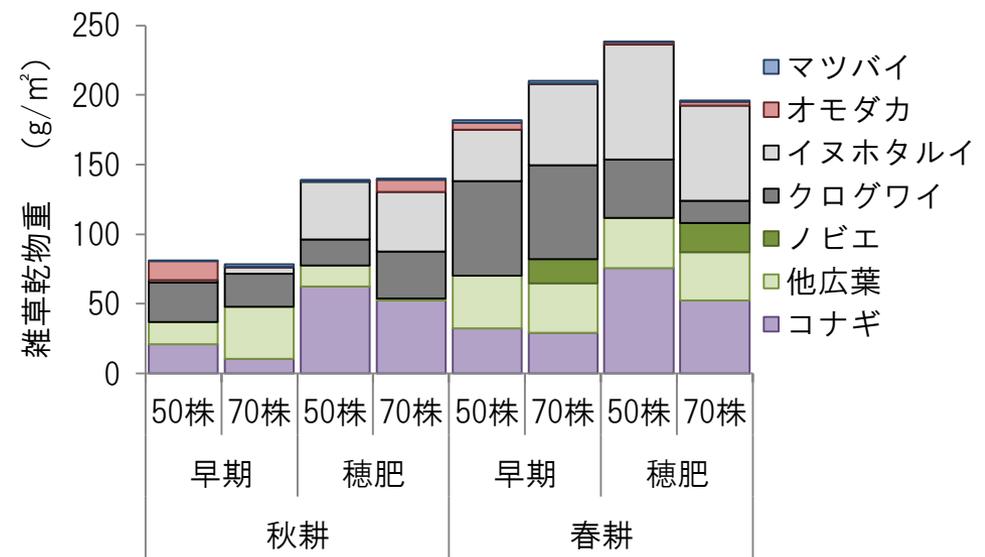


図 無除草部分の雑草発生量

クログワイは、秋耕、  
コナギは、田植え後の施用と密植、  
イヌホタルイは、秋耕と田植え後の施用が効果的。

**【成果の利用・留意点】** 長野県松本市の乾田での試験結果であり、利用にあたっては圃場の条件等に留意すること。

**【関連資料・文献】** 2015年度試験成績書

# 「紫御前」に比べ高温期の果皮退色が少ない「自農E-5」を育成中

高温期の果皮色の退色が少なく、強勢で着果性に優れた露地栽培向きナス交配種「自農E-5」を育成しています。

## 成果の概要

- ① 「紫御前」よりも強勢で、枝伸びが良い
- ② 果皮色の退色は「紫御前」に比べ少ない
- ③ 果形は長卵形で揃いが良い



① 草姿

## ② 収量及び傷害果の結果

品種 系統名	平均 果販果重(g)	可販果収量(/株)				B品果種別割合(果/株)	
		果数(個)	標準対比	重さ(kg)	標準対比	退色果	傷果ほか
自農E-5	91.3	14.1	97	1.17	136	2.3	9.2
紫御前	65.5	14.5	100	0.86	100	8.8	9.1

注1)「自農E-5」(対照品種)「紫御前」

注2)播種4/11 定植5/28(葉齢6枚程度) 仕立て方:無整枝 無施肥及び草生栽培(オーチャードグラス主体) 畝幅1m 株間50cm

注3)組合せ系統の収量及び特性(外観や果実等)を調査した。収穫期間は7/20~9/10(53日間)。



③ 果形